

目的、家庭生活、被服材料、住生涯等の変貌要因により、被服に對する觀念も著しく多様化して来た。このような中で幼児の着装は、その生活環境とどのようなかわりをもつかを調査する目的で、本調査をおこなった。現在殆んどどの保育所、幼稚園児の上衣は、制服の如きものを着用しているので、被服重、対体重比に視点を当てた。

方法、生活環境の相異として、公立の保育所と私立の幼稚園をえらんだ。対象は、4、5才の男、女。測定月は、5、7、11、2の各月、調査員数は、1050。保育所の実態は、給食の完全実施、年中裸でPM 1:30~3:30まで午睡、裸のまま年中日光浴をおこなう。家庭で子供の保育をおこなう責任者が殆んどいない生活環境。幼稚園A(一般的な生活指導)幼稚園B(Aと同じ経営方針、距離的に比較的近く、園児の生活環境に大差ない)これら三者を比較検討し、第1報、第2報にわけて発表をおこなう。

結果、保育所児と幼稚園児の間には、4才児、5才児、男、女共にこの季節に於いて有意差があり、保育所児の被服重、対体重比は小さく、且つ被服重の各人間のばらつきも比較的少なく、幼稚園児は、各人の間のばらつきは大きい。しかし、同じ生活環境、即ち、保育所、幼稚園別の同年令の男女間には、差はさわりと小さい。